

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	悠ライフさくら山鼻1F	評価実施年月日	平成21年10月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年10月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念の中で「その方らしい至福の時間を大切にすることが組み込まれている。	
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の申し送りで必ず唱和し、全体として共有できるようにしている。また事業目標や職場の教養も必ず唱和し、職員の意識を高めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	各階の入り口に理念が掲げられています。またご家族様や地域の方には地域運営推進会議や行事等の参加を呼びかける等、理解してもらえよう取り組んでいる。家族会を発足し取り組んでいる。	○ 今後も家族や地域の方々に更に理解して頂けるよう地域運営推進会議や行事を通じて取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	職員が地域運営推進会議に出席している。町内会で行っているゴミの清掃に参加している。地域の方にはホームの消防訓練に参加して頂いている。職員は隣近所の方々と気軽に挨拶を交わし、良いお付き合いができるように努めている。	○ 町内会の行事に参加したり、地域の人を巻き込んだ活動を行っていく。隣近所の方々に気軽に立ち寄ってもらえる雰囲気作りに努めている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の行事等に参加し、入居者様が地域の方と交流できるよう努めている。行事の際には近隣の駐車場を借りる等の対応をしている。	○ 地域で取り組まれている行事や催し物に参加出来るよう声掛け・お誘いしていく。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の皆さんにホームの見学を自由に行なって頂いている。	○ 全体会議などを通して地域の高齢者の暮らしに役立つことはないか話し合いの場を設ける。地域運営推進会議等を通して地域に住む高齢者のニーズを把握していくよう取り組んでいく。ホームに地域の方を招き、キャラバンメイト研修会を行う予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員は評価の意義を理解しており、前回の評価を活かして改善に取り組んでいる。</p>	○	<p>今まで以上のケアを行うため、さらに工夫を行い、外出支援の充実など良いケアに結びついている。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>地域運営推進会議に関してサービスの状況を報告し、皆さんからの意見もご意見や情報を交換し、サービスの向上に活かしています。地域運営推進会議の方の推薦により、グループホームの学習会の講師をして頂く。</p>	○	<p>2ヶ月に1回開催し、地域の様々な職種の方の意見を頂くようにしている。地域運営推進会議においても地域の方に講師をして頂き勉強会をしていく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村の職員は運営推進会議に依頼はしておらず、現状としては手続きや相談等で市町村と連携を図っている。</p>	○	<p>市町村との連携をする機会を設けるなどして、質の向上に取り組んでいく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在、2名の方が成年後見制度を利用されており、職員に関しては個人で研修に参加するなどして必要な場合は活用出来るよう支援している。</p>	○	<p>研修で学んだことを全体で話し合い情報の共有を図るようにしていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>勉強会や資料の設置を通して、学ぶ機会を設け、虐待をも逃がさないよう注意を払い、防止に努めている。また職員相互のケアの内容についても振り返りを行っている。事故・ヒヤリハットについても虐待の要素がないか確認し合っている。</p>	○	<p>今後も全体会議などを通して学ぶ機会を増やし防止に努めていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時には環境による認知症の症状を出きる限り最小限になるよう、家族に十分な説明を行い、理解、納得を図っていく。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談窓口は設置しており、日常生活の中コミュニケーションをとり意見や不満等を聞きそれらの運営に反映させている。苦情があった場合は速やかに報告書に記載し、改善に努めている。苦情の手順を契約書に盛り込み、手順・方法を説明し、御理解をいただいている。	○	今後も継続し行い、苦情が起こった原因を分析し速やかに対応していく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月1人ひとりの生活状況、金銭出納帳を担当職員から報告させて頂いています。また、健康状態に変化があった時は、家族の来訪時や電話にて都度状況を報告させて頂いている。	○	
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月、生活状況を報告する際、返信用封筒を同封させて頂き、意見や要望、苦情等を頂くようにしている。また家族会を発足し、意見交換ができる機会を設けている。	○	頂いた意見については、全体会議やユニット会議で話し合い改善していき、日常のケアに活かしていく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議等を実施し、意見や提案を聞ける機会を設けている。また、必要な時には個人とも面談を行っている。	○	全職員が意見や提案を出せるよう全体会議などのあり方を改善していく。日常のやり取りの中で職員の意見を聞くようにする。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じて、出来る範囲での勤務の調整を行っている。	○	人員に余裕を持たせ調整がいつでも可能になるよう体制を整えていく。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は異動や離職者を必要最小限に抑えるよう努力をし、職員は利用者へのダメージを防ぐ配慮に努めています。	○	定期的な面談を通して在職者の不安や悩みを把握するよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部での研修は機会の確保を行えるよう勤務の調整を行っている。また研修の情報各職員の閲覧しやすい場所に掲示し参加の呼びかけもしている。</p>	○	<p>全体会議などの場で研修を通して得られたものを報告し、全員で共有していく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>中央区認知症高齢者グループホーム連絡会に参加し、同業者との交流を通じ、サービスの質の向上に努めている。</p>	○	<p>地域の同業者との交流を図るためのネットワーク作りを行い、積極的に参加する。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>シフトにおいて希望休を募ったり、連休が取れるようシフト作りを行いストレスの軽減に向けている。</p>	○	<p>就業規則を改正し、法人全体で有給所得に向けた取り組みを行っていく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう、個々に声かけし努めている。</p>	○	<p>運営者・管理者・職員が話し合える環境を作っていく。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に御本人様とご家族様の面談を行い、困っていること、不安なこと、求めていること等を聴き本人の思いを受け止めるよう努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に御本人様とご家族様の面談を行い、困っていること、不安なこと、求めていること等を聴き本人の思いを受け止めるよう努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御本人様及びご家族様のその時のニーズを見極め当ホーム以外でのサービスも視野に入れた上での対応に努めている。	○	移送サービスなどの外出支援サービスなど、今後もより広い分野で対応できるよう努めたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	御本人様をお茶の時間にお誘いしたり、体操やレクなどホームでの生活や他の入居者様との交流を体験して頂いたりし、安心してサービスを利用できるようにしている。	○	入居前に皆様と顔合わせをしたり、同じ時間を共有するなどして、柔軟に対応したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	センター方式を利用し、そのらしさを大切にしながら一緒に過ごすということを理念に掲げ、日常生活の中でできることを見極め取り組んでいます。	○	ゆったりと共に過ごす為の工夫や外出支援など効率的に行えるよう追求していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面接時や電話連絡時などに、現状を都度報告し、行事や病院受診など御協力頂ける様、積極的に声をかけさせて頂き、グループホームでの生活を共に支える関係作りを行っています。	○	行事などを通してご家族も交えた関わりを継続し、ご家族様と職員間のコミュニケーションの充実も図っていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	傾聴や心を寄せさせて頂くことから始めている。共に楽しい時間を過ごして頂く場として、お誕生会その他の行事等への参加の呼びかけを行っている。 ご家族様にも外出行事に参加して頂いている。	○	今後も工夫を重ね、より良い関係の構築に向け支援していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様等に相談し、出来る限りの支援を心掛けています。	○	対話(御本人様・御家族様)より情報の掘り起こし具体的支援内容を探り実施していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の交流を図ることが出来るように、座席の工夫や日常生活の中でレクリエーションを取り入れる等して対応しています。	○	より良い関係作りのためレクリエーションを積極的に取り入れていき、また入居者様個人にあった対応も取り入れていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入居者様やご家族様の要望があれば応じ支援している。	○	今後も同様の対応に努めていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様のお話を聞き、また気分等の変化を感じ、伝えたいことや希望が日常生活の中からでも把握できるよう努めている。	○	今後も同様の対応に努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し、今までの生活環境などの情報を元によりよいケアを提供できるように努めている。	○	ユニット会議などで情報の再確認を職員間で行い、共有しケアにつなげていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の記録を生かし、申し送りの中でも状況の変化や意見交換を行い、定期・必要に応じ会議の中でモニタリングに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	入居者様やご家族様の意見を聞き、職員間で話し合いを行いながら、その方にあった生活を送ることができるのか、現状の課題・今後を見据え作成している。	○	ユニット会議などで話し合いの場を持ち、職員間でニーズの把握や情報の提供を行い、よりよい計画作成につなげて行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画期日を管理し、終了数前に見直し等を行っている。その都度モニタリングやアセスメントを行っている。 月1回のケアカンファレンスを行い対応している、また新たに問題や必要な事例があった場合には少人数でのケアカンファレンスを行い、御本人様や御家族様と相談しながら、現状に即した計画を作り直している。	○	円滑・迅速に対応できる力量をチーム・或いはホームとして更に発揮していきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各計画の項目に番号を記載し、ケース記録に実施した内容を記載するようにしている。またケース記録記載の際に、すぐに閲覧できるようファイルを設けている。1日の様子をケース記録に記入し、連絡ノートにて伝達事項等の情報共有に努め、確認し合いながら取り組んでいるが、介護計画に沿った記録という点では不十分さがある。	○	更に介護計画に沿った記録になるように努力し改善する等の工夫をしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	1階のデイサービスフロアを催し物、家族会、地域運営推進会議、住民による福祉講演会、避難訓練などで利用している。 駐車場スペースにテーブルやイスを置いて、日光浴、お茶会や焼き肉パーティなど活用し皆さんがくつろげるスペースを確保している。	○	併設されているデイサービスの機能を活用できるよう検討する。合同の行事などの開催なども計画していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年2回の避難訓練や行事の際のボランティアの協力を行っている。	○	年2回の避難訓練や行事、地域運営推進会議等において地域の方と意見交換を行い協働できるよう努めていきたい。 日常的なボランティアという視点では改善していく必要がある。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現状他の介護保険サービスの利用はないが、病院受診における介護タクシーの利用や訪問美容、訪問診療、訪問歯科等のサービスを利用している。	○	今後は地域のケアマネジャーとの話し合い等を行い、入居者様の状況に応じたサービスを利用できる為の支援も考えていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に1度、定期的に地域運営推進会議において協議等を行っている。	○	日頃から地域包括支援センターとの連携を密にし、必要に応じ協働していける体制を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の主治医の訪問診療において健康管理を行っている。また必要におうじて24時間365日電話にて健康に関する相談を行い、日々の生活の注意点や他の医療機関の紹介を受けるなどして健康管理に努めている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医に状況を報告し、相談しながら必要に応じ、物忘れ外来受診などを行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携看護師を中心に、往診看護師、併設事業所看護師と連携し、相談やアドバイスを受けている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院に向けて面会や電話などで病院関係者との情報収集や連携が取れている。また情報は連絡ノート等を使用し、共有できる体制をとり、退院前にはカンファレンスもしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族様や入居者様の意向を踏まえながら病院関係者との連携を図っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居時にご家族様に対して説明し、かかりつけ医と共にチームとしての支援に取り組んでいる。	○	一人ひとりの変化に備えて、準備を具体化していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居前に御本人様やご家族様とできる限り話し合いをし、ご家族様にもできる範囲内で協力をもらっている。またグループホームの入居の際には出来る限り馴染みの物を持参して頂くよう声をかけさせて頂いている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人の人権の尊重に努め、これまでの生活歴や生活環境と入居者様のパーソナルスペースを大事にしながら声掛けや対応を行っている。</p>	○	相手の行動を受け止め余裕を持って対応する。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者様が自ら選べるような声掛けや場面作り、話をゆっくり聞きながら、同じ目線で対応している。</p>	○	今後もよりよいケアを行えるよう場面作りや対応の工夫を行っていく。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者様の希望やペースに合わせてながら、日常生活を好きなように過ごして頂くよう声かけて取り組んでいる。</p>	○	入居者様一人ひとりの希望に添えるよう工夫をし取り組んでいく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみを整えるために毎月1回、定期的に訪問美容を利用している。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>誕生日や季節の食べ物、行事での食べ物などを取り入れ、日常の調理でもできるところは一緒に行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	全員の希望通りに行かない時もあるが、出来る範囲での支援を行っている。おやつは出来る限り希望をかなえている。入居者様によっては御自分の好みの物を購入し召し上がっています。入居者様の嗜好を把握し提供する。時には一緒に作っていく。	○	手作りでできるものを取り入れる等工夫をしていく。今後も引き続き、好みを把握し楽しく召し上がって頂く工夫をする。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	記録などを利用しながら、排泄パターンを把握し、声掛けなどの誘導をしている。また安易に排泄用具を使用せず、トイレでの排泄が出来るように支援している。	○	トイレ誘導の際にはプライバシーに配慮し、その方だけに伝わるようにしている。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日を決めずに、入居者様の希望や声掛けにて実施し、入浴拒否がある方に対しては、体調や気分などを考慮し、足浴等工夫して対応している。またチェック表を活用し、定期的に入浴できるよう支援している。四季を感じれる工夫もしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様のリズムに合わせて疲れている時は居室でゆっくり休んで頂くなど、安心できる環境を作れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の状態に合わせて出来る範囲で家事の手伝いや掃除など場面作りの支援を行っている。気分転換に散歩やドライブにお誘いする。	○	今後も出かける機会を増やしていく。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その方の状況に合わせて、支援していく。	○	希望に添って計画し、人員の配置や家族への協力を得て行えるようにしていく。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	人間的に困難な時もあるが、ご利用者様の希望により、公園に散歩に出かける等外出の機会を作っています。また定期的にご家族の方も外出支援して頂いています。	○	今後も家族の協力を得て行えるようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	四季折々に行事の計画を立てて、外出の支援をしている。	○	気軽に外出できるように人員配置などを工夫し機会を作るようにしていく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	状況に合わせて携帯電話の所持をしたり、支援をしている。またホームの電話にかかってきた際や電話したい時も取り次ぎ支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部や外部の研修の参加やケアの振り返りを行い、職員は具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	今後も身体拘束とは何かについて全員が理解を深める。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。またリビングの戸に開閉時に鳴るチャイムを設置し、行動の自由・安全確保を行っている。	○	今後も鍵をかけないケアの実践を行う。
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間で声掛け合いながら、利用者の所在・様子・安全を心掛けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状況に合わせながら、危険の度合いに考慮し取り組んでいる。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時の内部研修を行い又対応のマニュアルもできている。ヒヤリハット及び事故報告書を職員全員で確認し事故防止に努めている。	○	今後も事故防止に向けて勉強会を行い、職員のレベルアップを図っていく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応の訓練については全体として行われていない。	○	全職員が熟知できるように今後訓練を定期的に行えるようにする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練を行い、前回地域の方に呼びかけを行い数名の方が参加されたが、現状としては施設内のもので終わっている。	○	地域の方々の協力も得られるように働きかけを行っていく。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	介護計画の説明時や状態に変化が見られた際には都度ご家族様にご連絡し、対応についての話し合いをしている。	○	今後も地域の皆さんの協力を得られるように働きかけていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの状態を把握できるよう、毎日バイタル測定を行っている。また状態の変化や異常を早期に発見できるよう状況を観察し、記録に残すなどして、情報を共有し対応できるように行っている。また体調変化時は主治医に連絡し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診・受診記録に薬剤情報や往診時の状況を記録し、ドクターの指示通りに服薬できるよう支援し、様子観察を行っている。	○	薬の効果や、副作用について熟知し、個人にあった対応を心掛けていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	起床時には牛乳やヤクルトなどを提供し、1日の水分量も1000ml～1500mlを目安に提供するように努めている。またバイタルチェック表にて排便の有無の記録を記載し、定期的な排便があるかの確認を行っている。定期的な排便が見られない等の症状がある場合には主治医に相談し、必要に応じて薬の調整なども行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者様の状況に応じ、必要な支援を行い、口腔ケアを実施している。口腔内に変化が見られる場合には、歯科往診を受けたり、衛生士による定期的な訪問指導を受け、状態の改善に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食事量や水分量をチェックし、状況に変化がないかの確認を行っている。また食事に関しては業者に委託し、カロリー計算を行っており、3食で1500kcal程度である。また丼物の具を別にしたたりする等、個人の好み健康状態に応じた食事提供を行っている。	○	摂取量不足の時には医師の指示を仰ぎ、栄養補助食品を提供している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のため来訪者にはうがいと手洗いの励行をお願いしている。また職員に関しても出勤・外出後は必ず手洗いとうがいをやっている。またモーリス等の消毒薬を使用し、日常的に消毒を行い予防に取り組んでいる。汚物などの介助の際には使い捨ての手袋を使用している。	○	感染症に対する予防や対応の取り決めを更に具体化していく。職員の就業前、来訪者の手洗い・うがい・マスク着用を更に徹底していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	必ず食材のチェックを行いながら、調理を行っている。また炎天下の日など食中毒が発生しやすい日はより一層、食材に火を通したり、生物を提供しないなど注意し対応している。入居者様に食事を提供する前に、職員間で味見をし、安全管理に努めていく。調理器具などの消毒は日常的に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに花を植えたり、畑で野菜を作ったり、駐車場にテーブル等を置くなどして、親しみやすい工夫はされている。	○	今後も季節感のある花や野菜を入居者様と一緒に作ったり、飾ったりしてもっと親しみやすい環境づくりを工夫していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	音や光が不快にならないように自然に取り入れるよう工夫している。	○	より一層の四季を感じることでできる工夫等をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルやソファーを利用し、個人の過ごしやすい環境を作っている。	○	今後も工夫を続けていく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談し、以前から使用していたものを持ってきて頂き、できるだけ環境を変えないように配慮している。仏壇等も持ってきて頂いている。	○	今後も御家族様や御本人様と相談しながら工夫していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	必要に応じて、換気や暖房などの調整を行い、本人が生活しやすいように配慮している。	○	換気を十分に行い、気になる臭い等が出ないようにしていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内では安全のために手摺りを使用していただき、また手引き歩行をして頂くなど、状況に応じ安全で出来る限り自立した生活が送れるよう支援している。	○	今後も安全で自立して生活が送れるよう支援していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや部屋に目印の工夫をし、混乱しやすい方には日中から声かけしたりしてトイレへ誘導するなどケアの統一を行っている。見守り介助をさせて頂きながら、一緒に家事を行って頂けるよう工夫している。	○	スムーズに活動できるよう、職員は、段取りを整えた上で声掛けをするように留意し、混乱や失敗がないように心掛ける。一人ひとりの身体機能に合わせて出来る事を見つけ支援していく。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダにプランターをおき、野菜や花の手入れをしたり、観賞したり楽しめるよう配慮している。	○	安全に活動できるよう配慮していく。またユニットのベランダも活用して行きたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ○ ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ○ ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ○ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ○ ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ○

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ○ ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ○ ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○ ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)